



2013年02月号

さくら

発行：偕行会透析医療事業部 さくら編集委員会

「わが国の腎移植の現状について」

藤田保健衛生大学医学部 臓器移植科 教授 剣持 敬

昨年9月より、藤田保健衛生大学医学部臓器移植科 教授を拝命いたしました剣持 敬です。藤田保健衛生大学病院は脳死や心停止ドナーからの臓器提供が多く、全国でトップレベルの施設です。また腎移植、膵臓移植、肝臓移植の実施施設で、



献腎移植数でも全国有数の施設であり、最近では膵臓移植、膵・腎同時移植が盛んにおこなわれています。私も昨年8月まで勤務していた国立病院機構千葉東病院で腎移植、膵臓移植、膵島移植の立ち上げと臨床実施を行い、8年間で腎移植 315 例、膵臓移植(膵・腎同時移植含む)30 例、膵島移植 8 例の臨床実績を有しております。またこちらに赴任後も脳死膵・腎同時移植 5 例、脳死膵臓移植 1 例、生体腎移植 2 例、生体肝移植 2 例を行っております。また偕行会グループにお世話になっており、現在、第2・4週の後 1 時より名古屋共立クリニックで臓器移植外来(腎移植、膵臓移植)を行っております。今回は腎移植の実施数や成績などについて紹介いたします。

日本移植学会、日本臨床腎移植学会の集計では、わが国の腎移植数は年々増加し、2011年の年間腎移植実施数は 1,601 例と過去最高数を示しました(図1)。その内訳は、生体腎移植が 1,389 例と 86.8%を占めており、献腎移植は 212 例でした。献腎移植のうち心停止ドナーは 126 例と前年の 2010 年より